安全作業手順書【路面補修】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具・車両	クラックシール溶融窯、ガスバーナー、注入器具、ヘラ、コテ、石灰、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、保護メガネ、保護マスク、皮手袋、軍手

見積もり基準をした危険性の評価

可能性(A) ＼ 重大性(B)	○ 軽微（不休と休業３日以内）	△ 重大（休業４日以上）	× 極めて重大（死亡・障害が残る）
○ ほとんど起こらない（５年に１回程度）	○○（極めて小さい）	○△（かなり小さい）	○×（中程度）
△ たまに起こる（１年に１回程度）	△○（かなり小さい）	△△（中程度）	△×（かなり大きい）
× かなり起こる（６ヶ月に１回程度）	×○（中程度）	×△（かなり大きい）	××（極めて重大）

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし（後で５見る）
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント（～なので～になる）	リスクの見積り (A)	(B)	リスク	安全対策（危険度２以下へ）（私達はどうする）	リスクの再見積り (A)	(B)	リスク
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1
		作業員の役割（運転手、助手）を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する	○	△	2
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う	○	○	1
		しらすんだーの動作確認を行う	規制班と一緒に	/	/	/	/	/	/	/	/
		防護車両の配置を確認する	安全対策のため	作業中、後方及び横側から走行車両に追突される	○	×	3	移動規制を伴う場合は、必ず防護車両を配置する	○	△	2
		使用材料の安全データシートを確認し、取扱い方法、使用時の防護状況を把握し、危険性の周知を行う									
	車両確認	セーフティーバイブル	25.車両回送手順書に則る								
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等	車両から必要資材を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
		夜間作業時照明器具を設置する	照明を規制外に向けない	一般走行車両が幻惑される	/	/	/	/	/	/	/
				荷降しする際に一般車両に接触する	○	×	3	通行帯の反対側に旋回させる	○	○	1
	クラックシール熔解	熔解釜加熱しクラックシールを投入する	①　保護メガネ、手袋、マスク等を使用する ②　周囲に可燃物がないこと消火器等が準備してあることを確認する	皮膚につき火傷等をおう	△	×	4	皮手を必ず着用する	○	○	1
				可燃物に飛び火し火事になる	○	×	3	可燃物を周囲に置かない	○	○	1
				クラックシールの過度の加熱により出火する	△	×	4	すぐに使える位置に消火器を配置し、クラックシール加熱中は温度に注意し、釜から絶対に目を離さない	○	△	2
	移動及び施工場所施工方法の選定	上流監視員の配置を確認する	規制班と調整して	後方の走行車両に気づかず追突・接触される	△	×	4	作業時は必ず一人監視員を配置し周囲に注意して作業を行う	△	○	2
		路面の状態を確認しながら移動する	①　作業者及び運転者が相互に路面状態を確認しながら ②　施工部をよく確認し悪部が大きい場合は路面パッチ等の施工を行う	/	/	/	/	/	/	/	/
				広範囲にクラックシールを施工すると、あとからシール材が剥がれ一般車両に付着するなどトラブルとなる。	/	/	/	/	/	/	/
	シール作業	クラックシールを注入器具に移す	①　保護メガネ、手袋、マスク等を使用する ②　熔解釜から移す際にこぼさないように	皮膚につき火傷等をおう	○	×	3	皮手を必ず着用する	○	○	1
				周囲に付着し汚れる。	/	/	/	/	/	/	/
		クラックシールを塗布する	風による飛散に十分注意して施工する	クラックシールが風により飛散しやけどを負う 風により飛散し一般車両を汚損する	△	×	4	風に十分注意して作業に臨む	○	○	1
		シール作業場所に石灰等を撒く	撒き残しのないように	粉状の石灰を吸引する	△	△	3	必ずマスクを使用する。	○	○	1
	路面パッチ	施工範囲外側に養生テープをはり施工範囲外への汚損を防止する	規制範囲をよく確認し	規制境界付近で作業をし車線側へはみ出し車両に接触する	○	×	3	作業時は必ず現場監視員を配置する	○	○	1
		材料を混合する	よく撹拌し混合ムラのないように	/	/	/	/	/	/	/	/
		コテ等で塗布する	硬化する前に手早くおこなう	/	/	/	/	/	/	/	/
		養生テープを撤去し後片付けをおこなう		/	/	/	/	/	/	/	/
	出来形検測	出来形検測を行う	養生時間内に	/	/	/	/	/	/	/	/
	仕上げ	場内の清掃を行う	竹ぼうきなどを使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		場内の状態確認を行う	使用道具、検測道具の置忘れに注意して	/	/	/	/	/	/	/	/
	現場離脱、帰着		25.車両回送手順書に則る								
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1